

岡山県金融経済動向

1. 概況

- 県内景気は、悪化している。
- すなわち、最終需要面をみると、設備投資は増勢が鈍化している。個人消費も一段と弱まっており、輸出は大幅に減少している。また、公共投資は低調に推移しており、住宅投資も減少している。こうした中、地場企業の企業収益が減益幅を一段と拡大する見込みにあり、景況感も急速に悪化している。
- 県内主要製造業の生産は、大幅に減少している。
雇用・所得環境をみると、労働需給が一段と緩和する中で、雇用者所得は弱含んでいる。

2. 実体経済

(1) 個人消費

- 個人消費は一段と弱まっている。
すなわち、20/12月の販売動向をみると、百貨店売上高は、雑貨や食料品は好調なもの、衣料品や身の回り品が大幅に落ち込んだため、4か月連続で前年を下回った。スーパー売上高も、衣料品や生活用品などが不振であったことから、前年を下回った。また、乗用車販売では、普通車や小型車が落ち込んだことに加え、軽自動車も前年を下回ったことから、全体では5か月連続で前年を下回った。このほか、旅行取扱高は、国内旅行、海外旅行ともに低調であったことから、前年を下回った。
この間、家電販売では、このところ増勢が鈍化している。
一方、主要観光地への入り込みは、一部の先を中心に前年を上回った。

(2) 設備投資

- 県内企業の設備投資は、増勢が鈍化している。

すなわち、20/12月短観調査における20年度の設備投資計画（地場・出先企業計）をみると、製造業では、素材業種が鉄鋼を中心に、加工業種が輸送用機械、食料品を中心に増加することから、全体でも前年を2割弱上回る計画となっている。また、非製造業でも、小売、運輸、電気・ガスなどを中心に増加計画となっている。この結果、全産業ベースでは、高水準である前年を1割強上回る計画となっている。

なお、前回調査（20/9月調査）と比較すると、製造業、非製造業ともに下方修正となったことから、全産業ベースでも下方修正となった。

建設投資の先行指標である着工建築物床面積（非居住用<20/10~11月>）は、前年が改正建築基準法施行の影響により落ち込んだ反動もあって、前年を上回っている。

(3) 住宅投資

- 住宅投資は、減少している。

20/11月の県内新設住宅着工戸数をみると、マンションは前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったため、全体でも前年を下回った。

(4) 公共投資

- 公共投資は、低調に推移している。

発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、20/12月は、「国」、「市町村」で前年を下回ったものの、「独立行政法人等」、「県」、「その他の公共的団体」が前年を上回ったため、全体では前年を上回った。

(5) 輸 出

- 輸出は、大幅に減少している。

20/11月の県内輸出（通関実績）をみると、アジア、中東、北米向けを中心に前年を下回った。

(6) 生産・出荷・在庫

- 20/11月の県内鉱工業生産指数（直近計数）の季調済前月比は、輸送機械、鉄鋼、一般機械を中心に低下したことから、全体では2か月連続の低下となった。

この間、出荷指数（季調済前月比）は、輸送機械、電子部品・デバイス、一般機械を中心に低下したことから、全体では3か月連続の低下となった。また、在庫指数（前年同月比）は、一般機械、石油・石炭製品、繊維を中心に、3か月連続の上昇となった。

- 県内主要製造業の最近の生産動向（10業種、付表参照）をみると、造船は、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。一方、工作機械は、生産が減少しており、石油精製、石油化学は、低水準の生産を続けている。この間、鉄鋼は、自動車向けなどの需要の落ち込みを背景に、生産が大幅に減少しているほか、耐火物でも、生産水準が低下している。また、自動車、電気機械は、内外需要の落ち込みなどを背景に、生産が大幅に減少している。このほか、繊維は、安価輸入品との競合や海外への生産シフトなどから、全体として低水準にある。また、農機具は、生産が持ち直している。

(7) 雇用・所得

- 労働需給面をみると、20/12月の有効求人倍率は、新規求人数の減少から低下しており、1倍を下回った。また、20/11月の所定外労働時間は、前年を下回った。雇用面をみると、20/11月の常用労働者数は、前年を上回った。この間、20/12月の雇用保険受給者数は、ほぼ前年並みの水準となっており、解雇者数は高めの水準となっている。

賃金をみると、20/11月の一人当たり現金給与総額は、僅かながら前年を上回った。

この結果、雇用者所得は、弱含んでいる。

(8) 物 価

- 20/12月の岡山市消費者物価指数（平成17年基準、生鮮食品を除くベース）は、交通通信、教養娯楽などが前年を下回っているため、全体では僅かながら前年比マイナスに転じた。

(9) 企業倒産

- 20/12月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数、負債総額ともに前年を大幅に上回った。

3. 金 融

(1) 実質預金等

- 20/12月の県内実質預金をみると、個人預金、法人預金の前年比伸び率が低下したほか、公金預金の前年比マイナス幅が拡大したことから、実質預金全体の伸び率は低下した。

なお、地元10行庫の預かり資産をみると、市況悪化の影響から投資信託の残高が前年比マイナスとなっているものの、保険商品は引き続き高い伸び率となっている。

(2) 貸 出

- 20/12月の県内貸出をみると、企業向け、地公体向けが前年比伸び率を縮小させたものの、個人向けが前年比プラス幅を拡大させたことから、貸出全体の伸び率は上昇した。

(3) 貸出約定平均金利

- 20/12月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は、前月比低下した。また、ストック金利（同）は、3か月連続で前月比低下した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707 岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111（代表）

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主要製造業の生産動向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	海外需要の落ち込みを背景に、大幅に減少している。 輸出向け生産が、海外需要の落ち込みを背景に、大幅に減少しているほか、国内向け生産も、新型車投入効果の剥落などから伸び悩んでいる。こうした中、部品メーカーなどの県内関連先についても、生産水準を大幅に引き下げる動きが広がっている。
造 船	豊富な受注残を背景に、高操業が続いている。 造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンの生産が高操業を続けている。
石油精製	原油処理量は、低水準で推移している。 製品別にみると、ナフサ、ガソリンは、需要が伸び悩んでいるため、やや低めの生産水準となっている。軽油は、一部先で輸出が増加したため、高めの生産水準となっている。灯油留分は、灯油が気温の低下などから需要が持ち直したため、やや高めの生産水準となっているものの、ジェット燃料は、需要に弱めの動きがみられるため、やや低めの生産水準となっている。一方、重油は、生産量が減少傾向にある。
石油化学	内外需要が落ち込んでいるため、低水準の生産となっている。 製品別にみると、ポリエチレンでは、需要に弱さがみられるため、低めの生産水準となっている。プロピレンでも、自動車向けを中心に需要に弱さがみられていることから、低めの生産水準となっている。一方、スチレンモノマー、ポリスチレンは、国内、海外ともに需要が落ち込み、採算も悪化しているため、生産水準を一段と引き下げている。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、大幅に減少している。 製品別の動向をみると、薄板類は、自動車・家電向けで需要が落ち込んでいるため、生産水準は大幅に低下している。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。形鋼類は、内外ともに需要が減少しており、生産水準が低下している。棒鋼類は、自動車・建設向けで需要が落ち込んでいるため、全体としては低めの生産水準となっている。
耐 火 物	需要が減少しているため、生産水準が低下している。 大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカーの減産の影響から、受注が減少している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続く中、需要が減少しているため、生産水準が低下している。
電気機械	携帯電話向け部品などの落ち込みを背景に、大幅に減少している。 製品別にみると、電子部品は、携帯電話向けやデジタルカメラ向けで生産が大幅に減少しているほか、液晶関連も低調に推移している。スイッチでも、携帯電話向けで生産が大幅に減少している。また、デジタルビデオカメラは、海外需要の落ち込みを背景に、生産水準を引き下げている。
織 維	全体としては低水準の生産が続いている。 製品別にみると、綿織物、合繊織物、ジーンズは、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、作業服は、主要顧客である建設業の業況悪化や海外拠点への生産シフトを背景に、低調な生産が続いている。一方、学生服は、少子化の影響によって市場は長期的には縮小傾向にあるものの、足もとの需要は安定しており、生産水準は横ばいとなっている。
工作機械	自動車関連需要の落ち込みなどを背景に、減少している。 NC旋盤、MC（マシニングセンター）ともに、自動車関連、一般機械関連の新規受注が減少しているため、生産水準を引き下げている。
農 機 具	生産は持ち直している。 製品別にみると、コンバインは、生産水準が低下しているものの、前年に生産調整を実施した反動もあって、低下幅は小幅に止まっている。また、携帯用刈払機では、一部の先で豪州を中心とした海外向けが増加しているため、全体の生産は底堅く推移しているが、先行きについては慎重な見方が多い。